

2022

9

September

ことこと



📖 こころとことばと 📖



防災の日

はなす たべる きく

9/1 言語聴覚の日

言語聴覚士は医療機関、保健・福祉機関、教育機関など幅広い領域で活動し、障害のある方が豊かな社会生活を送ることができるように、ことばや聴こえ、飲み込みに困難をいつとご支援を支援します。

設立者 夏文春 心づつゆん

JAS 一般社団法人 日本言語聴覚士協会
Japanese Association of Speech-Language Therapists

言語聴覚の日



敬老の日

特集 防災の日 P1

- 失語症者向け意思疎通支援者養成研修を受講して・・・P2
- 第23回 日本言語聴覚学会 発表記・・・P3
- 2022年度新人STの紹介 第2弾・・・P4
- 知ってトコトコ・・・P5
- 理事会報告・・・P6
- 編集後記・・・P7

Vol. 5

一般社団法人
高知県言語聴覚士会会報



特集

高知県災害リハビリテーション研修会 参加記

貞光 梨沙

令和4年7月12日高知県災害リハビリテーション研修会に参加しました。熊本機能病院 総合リハビリテーション部の三宮克彦先生より、「大規模災害被災早期の活動について」お話して頂きました。平成28年4月に発生した熊本地震において、実際の事例を通した内容となっており、避難所写真なども見せて頂きました。災害が発生すると想定外のことが起こるため、平時から備えを十分に行うことの重要性を学びました。また、災害後の医療提供は生活を再建することまでが必要で、医療従事者として、言語聴覚士として何が出来るのか考えました。災害が発生することで身体的、心理的に影響があり、生活不活発病の予防など避難所等でリハ的な関わりが大事になってくると思います。JMAT や医師会との協力を災害時に効率的に活動できるように連携することも大切だと学びました。

今後数十年以内に、南海トラフ地震が発生すると言われています。時間差で複数の巨大地震が発生する可能性があり、これまでの地震・津波対策の延長上では十分な対応は困難とも言われています。当院では、定期的に避難訓練や南海トラフ地震に向けた医療機関のBCP といった研修会を開催しております。今後も院内外問わず、災害リハビリテーションについての研修会に参加し、知識を高めていきたいと思っております。

(さだみつ りさ・三愛病院)

第14回 JIMTEF 災害医療研修 参加記

野田 侑佑

この度、災害医療に関する専門的な知識と技術の維持向上を目的に、2022年6月4日～7月3日までの期間、オンライン開催となった第14回 JIMTEF 災害医療研修に参加してまいりました。

講義は研修期間中に1週間3時間程度の講義を視聴して、その後オンライン試験を経て全17項目を受講する、充実した内容のプログラムでした。

プログラムの一部を紹介すると、災害医療概論から、災害と栄養、本部運営と記録、災害と口腔ケアなど内容は幅広く、また実際の東日本大震災・東京電力福島第一原発事故に対する医療対応や熊本地震での対応など、実際起こった災害経験からの話を聞くこともできました。

近年、地球規模で災害が増加している背景には、言うまでもなく地球温暖化の影響や無計画で無秩序な都市化などがあると、講義で教えていただきました。発展した文明は災害に脆弱で、いっどこでのような種類の災害が起こってもおかしくないため、日頃から災害を身近なものとして捉え、地域の災害の危険度を認識しておくことが重要だと感じさせられました。

30年以内に南海地震が発生する確率が60%程度、東南海地震で70%～80%と言われています。現実から目を背けず、来るべき国難級の災害に備えをしておかなければならないと、あらためて感じました。

(のだ ゆうすけ・須崎くろしお病院)

失語症者向け意思疎通支援者養成研修を受講して

高野 史匡

7月24日、31日の2日間、ふくし交流プラザにて、失語症者向け意思疎通支援者養成研修を受講してきました。本研修は、講義形式と実習形式があり、STは講義を受講することで、実習が免除され、失語症者意思疎通支援者になれることとなっています。この2日間は、マスク着用はもちろんのこと、会場の換気をしっかり行い、またフェイスシールドやアルコール除菌など、新型コロナウイルス対策を行い、現地で開催されました。

7月24日は、高知県障害福祉課の方から意思疎通支援者の業務についてお話をいただいた他、西田会長から失語症概論や、意思疎通支援者としての心構えなどのご講義をしていただき、STとして、失語症とは何かということも復習することもできました。

7月31日は、身体介助の方法として株式会社らいさすのPT吉良健司先生にご講義していただきました。普段の業務でも行っている身体介助の方法について改めて考えながら受講したことでした。また、午後からは、「コミュニケーション技法」という講義の際、ロールプレイとして、如何にわかりやすく失語症者に話を伝えるかということも学びました。文字を使うにしても提示の仕方や話を要約して伝える工夫が必要であり、私が思っていたよりも苦勞したことでした。

今回受講して、まだまだ私自身の技量が足りていないことがわかり、失語症者向け意思疎通支援者にはなりませんが、まだまだ自己研鑽をして、その名に恥じないような支援者になりたいと思います。

県士会員の皆様、STの場合は、講義のみの受講で、失語症者向け意思疎通支援者養成研修を修了することができますので、ぜひ来年度以降、受講していただければと思います。よろしくお願いたします。



ロールプレイの様子



修了証授与

(たかの むみまさ・須崎くろしお病院)

日本初の
専門職大学

学校法人 高知学園
高知リハビリテーション専門職大学

〒781-1102
高知県土佐市高岡町乙1139-3
TEL.088-850-2311
FAX.088-850-2323

学部・学科・定員名
リハビリテーション学部 リハビリテーション学科
理学療法専攻/4年・定員70名
作業療法専攻/4年・定員40名
言語聴覚専攻/4年・定員40名

医療から福祉、在宅まで
リハビリテーション機器・病棟用機器
介護用品・福祉用具のレンタル

有限会社 石原産業

〒780-0056

高知市北本町1丁目1-10
(近森病院北館1F)

TEL (088) 872-1771
FAX (088) 872-1833

第23回 日本言語聴覚学会～in新潟～ 発表記

「当院における手動経管栄養投与時間の調査報告ーリハビリテーション部の業務改善にむけてー」

井上 浩明

①ネタの決め方

日々行っている業務改善のうち、結果も良く、アプローチも効果的であり、今後も活用できると思われた内容を採用しました。

②準備期間

アンケート2カ月、結果分析1週間、スライド作成2日です。

③大変だったこと

発表を行う際、自分のスタンスとして1か月以上前にはスライドを完成させているのですが、発表1か月前にポスター形式の指定があり全て作成し直したことです。また、ポスターを事前に送る手配でしたが、郵送先が開催1週間前に知らされ、かつ具体的な送付方法が書かれておらず、ポスターの送付方法を宅急便会社や郵便局に、ポスターを入れる容器を文房具店に問い合わせるなど、送付方法で混乱しました。

④感想

以前は、このような業務改善の内容で発表するとは思っていませんでした。しかし現在、ST数も増加し、今後はSTでも専門的なマネジメントが問題になってくると思います。経験だけではなく、理論的な根拠をもった戦略やマネジメントが必要です(コスト面も含めて)。今後も臨床と並行し、よりレベルの高いマネジメントを行い、それを発表としてフィードバックしていきたいと思っています。

(いのうえ こうめい・近森病院)

「脳梁梗塞により失構音を呈した一症例」

山崎 優莉奈

①ネタの決め方

リハビリ介入当初から、病巣と症状に対する疑問点が多数あり混乱している状況でした。ご指導していただきながら脳梁梗塞により見られる症状について様々な検査を通して形付けを行っていき、失構音が出ている結果に辿り着きました。これまでの脳梁梗塞と失構音についての報告例が少ないため、発表させていただく形となりました。

②準備期間

3~4ヵ月の間で必要な検査を取り終え、上司と相談しながら考察を行って行きました。

③大変だったこと

脳梁梗塞による失構音の報告が非常に少なく、考察に難渋しました。また、どのような検査が必要なのかということや、検査の結果から病巣と合わせながら失構音が出るメカニズムを考察することに最も頭を悩ました。上司に相談しながら、沢山ご指導をいただき、形にすることができました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

④感想

今回の学会発表の準備の中で、“失構音”“脳梁の役割”等の文献を読んでいく中で、知らない単語や内容にふれる機会も多く知識不足を実感しました。「臨床現場では、常に疑問を持ちなさい」と学生時代から言われてきた言葉をふと思い出すことも多かったように感じます。知識をつけていくことで新たな仮説や疑問を見つけることが少しでも出来るようになったことが何より嬉しかったです。

(やまさき ゆりな・愛宕病院)

♪2022年度 新人STの紹介 第2弾♪

福利厚生部 森下 裕介

残暑の候、会員皆様におかれましては、ご多忙の中お過ごしのことと存じます。

この度、一般社団法人 高知県言語聴覚士会に新たな4名の新人STの方が入会されましたので、ご紹介をさせていただきます。

引き続き、これからも皆様と一緒に、当会を盛り上げていきたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

質問項目)

- ①卒業校 ②現在の勤務先 ③趣味 ④尊敬する人 ⑤興味のある分野 (ST領域)
⑥なりたいST像、チャレンジしたいこと等

大坪 賢也 (おおつぼ けんや) さん

- ①高知リハビリテーション学院 ②南国中央病院
③料理 ④両親 ⑤摂食・嚥下障害
⑥多くの実践と経験を積み、患者様から信頼される言語聴覚士を目指します。



神田 りか (こうだ りか) さん

- ①高知リハビリテーション学院 ②近森リハビリテーション病院
③映画鑑賞 ④母 ⑤失語症、摂食・嚥下障害
⑥他職種と連携し、患者さんやご家族の方に寄り添い、分かりやすい言葉で説明ができるSTになりたいです。



高岡 真由 (たかおか まゆ) さん

- ①高知リハビリテーション学院 ②愛宕病院
③散歩 ④母 ⑤摂食・嚥下障害
⑥専門知識だけではなく他の分野についても勉強し、その知識を臨床に活かしたいです。



鍋島 歩 (なべしま あゆむ) さん

- ①高知リハビリテーション学院 ②いずみの病院
③カラオケ ④母 ⑤高次脳機能、摂食・嚥下障害
⑥患者様本人やそのご家族の方からも信頼されるSTになりたいです。



(もりした ゆうすけ・南国中央病院)



「お弁当と前向きな食事の話」

小山 いつき

「私はいつ食べれるようになるのでしょうか」

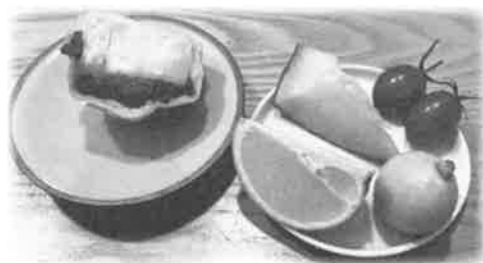
入院前は普通食だったにも関わらず、突然思うように食べられなくなった患者様からこのような疑問を訴えられたことは少なくありません。言語聴覚士として働き始めて今年で2年が経ち、どんな声掛けができるのかは今も自分の中で課題となっています。

安全に嚥下訓練を進めていく中で、病態解釈から予後予測を行い、患者様に前向きに訓練をしていただくことはとても大切です。しかし、重度嚥下障害の患者様に対して、楽観的なことも言えず、問題点から挙げられる間接訓練を立案する度に、直接訓練への要望が大きくなるばかりで悩んだこともありました。無意識に患者様との会話で食べ物の話を避けてしまっていた時もあり、段々と患者様が訓練に意欲的では無くなっているのが分かりました。

ある日患者様が、主婦が作ったお弁当が掲載されている雑誌に目を通していたため、私は思い切って自分も毎日お弁当を作っていると話題に挙げました。すると、昔患者様も子供に弁当を作っていたことを楽しそうに話してくれました。私の出身の郷土料理であるいきなり団子や仕送りで届いた熊本産のトマトや果物などがお弁当の中に入っている話では、笑いながらも「いつか自分も食べてみたい」そんな話で患者様と前向きな話ができたように思います。その後、患者様は訓練だけでなく自主トレも積極的に実施するなど、前向きに嚥下リハビリに取り組み、「他院でも頑張ります」と笑顔で転院されました。

「食事は楽しく美味しく食べるのが大事」

私の祖母がよく言っていた言葉ですが、本当にその通りだなあと感じます。楽しく美味しく食べることが、人生において大切な役割を担うのだと今回の経験で改めて知りました。今後も患者様に寄り添いながら一緒に食事について考えることのできる言語聴覚士へと成長していきたいと思っています。



(こやま いつき・高知大学医学部附属病院)

★理事会報告★

2022年6月理事会《オンライン会議》

日時 2022年6月1日(水) 19:00~20:10

出席 西田 石川 池 小野 川上 小松 高野
谷本 野田 森下 山本(理) 横畠 吉村
若林 矢野(書記)

欠席 山本(光)

【検討・報告事項】

1. 失語症者向け意思疎通支援に関する研修(スキルアップ・必須基礎)の準備状況と、指導者研修参加の申込みについて報告された。
2. 会報編集部部会ミーティングについて報告・承認され、会報の送付先、送付方法、ホームページ掲載について検討された。
3. 基礎講座・専門講座・テーマ別研修会の予定について報告され、専門講座の参加費の設定金額について検討された。
4. 高知県発達障害早期支援プロジェクトの登録等について報告された。
5. 四国言語聴覚学会・高知県言語聴覚学会について検討された。
6. 会員・会員所属施設数が報告された。また、後援依頼の報告があり承認された。
7. 県知事表敬訪問について報告された。
8. 災害リ研修会開催予定について報告された。
9. DWATについて県から説明を受けたことについて報告された。

2022年7月理事会《オンライン会議》

日時 2022年7月6日(水) 19:00~20:50

出席 西田 石川 池 小野 川上 小松 高野
谷本 野田 森下 山本(光) 山本(理)
横畠 吉村 若林 矢野(書記)

【検討・報告事項】

1. 災害リ研修会について、第14回 JIMTEF 災害医療研修バーシクコースへの参加、高知県災害リハビリテーション連絡協議会への参加、高知県災害リハビリテーション連絡協議会との共催での研修会開催が報告された。
2. 高知県リハビリテーション職能三団体協議会役員会の

報告のほか、地域リハビリテーション活動支援のための初期研修の日程が検討された。

3. 失語症者向け意思疎通支援者養成研修必須基礎研修の申込状況とスキルアップ研修の実施について、また、派遣事業契約について報告された。
4. 四国言語聴覚学会・高知県言語聴覚学会の日程・当日のスケジュールについて承認された。
5. 基礎講座・専門講座の準備状況が報告された。
6. 高知県発達障害早期支援プロジェクト事業の研修会について検討された。
7. 会報編集部部会ミーティングについて承認された。
8. 入会申請3名について承認された。
9. ホームページ改定について検討された。また、県士のPR映像の作成について検討された。
10. 新入会員紹介記事の会報掲載が承認された。
11. 都道府県士会会長会議の内容が報告された。

2022年8月理事会《オンライン会議》

日時 2022年8月3日(水) 19:00~20:05

出席 西田 石川 池 川上 高野 谷本 野田
森下 山本(理) 横畠 吉村 若林
矢野(書記)

欠席 小野 小松 山本(光)

【検討・報告事項】

1. 失語症者向け意思疎通支援者養成必須基礎研修の実施状況と実習の準備状況について、また、スキルアップ研修を行うことが報告された。派遣事業について申込み状況と今後の広報活動について検討された。
2. 基礎講座・専門講座の準備状況が報告された。
3. 協会が作成している乳幼児健診における言語聴覚ハンドブックに掲載する原稿を執筆していることが報告された。
4. 会報編集部部会ミーティングについて承認された。
5. 高知県言語聴覚学会の準備状況が報告された。
6. 県士会プロモーションビデオ制作について検討された。
7. 県士会への入退会と変更手続きについて検討された。
8. 入会申請1名について承認され、退会申請について報告された。
9. 新入会員紹介記事の会報掲載が承認された。

会員の動向 ●8月25日現在 会員292名 勤務先83施設

入会と退会は必ず事務局に速やかに届け出てください。職場の異動や住所変更、改姓（結婚等）などがあり、会員に伝えたい場合は申し出により掲載します。本誌への掲載をご希望の方は、会報編集部（下記連絡先）までご連絡ください。

年会費 ●年会費5,000円

下記口座へ振り込みをお願いします。※口座番号が一般社団法人化に伴い、変更になっております。必ず確認をよろしくお願ひします。直接支払いを希望される方は、県士会行事に参加の際に支払いをお願いします。

年会費の領収書が必要な方は、財務担当 山本（くぼかわ病院）までご連絡ください。

（くぼかわ病院 TEL:0880-22-1111 FAX:0880-22-1166）

○ゆうちょ銀行 記号：16440 番号：13472011 名義：社）高知県言語聴覚士会

○その他の金融機関

店名：六四八（入力時の読み方は「ロクヨンハチ」）

店番：648 預金種目：普通預金 口座：1347201 名義：社）高知県言語聴覚士会

編集後記

暑さが続く中、世界陸上に高校総体、甲子園によさこい祭りとコロナへの対策を取りつつ、以前のような賑わいが戻ってきています。皆様はいかがお過ごしでしょうか？

先日、県士会のホームページを見てみると、石川県の言語聴覚士会が企画なさっている川柳コンテストの紹介が目にとまりました。昨年度の入選作品を拝見すると、胸を打つ作品やユーモアあふれる作品が並び、どれも素晴らしい作品ばかりでした。今年の応募は締め切られていましたが、機会があれば挑戦してみたいとも感じました。皆様も是非一度ご覧になってみてください。

本誌に関するご意見・ご感想をお待ちしています。

〒785-8501 須崎市緑町4番30号 須崎くろしお病院内 (一社) 高知県言語聴覚士会 会報編集部

TEL:0889-43-2121 FAX:0889-42-1582 Email:st.kaihouhensyuubu@gmail.com

一般社団法人 高知県言語聴覚士会 会報 5号 2022年9月15日 発行

発行人 西田 香利

編集 会報編集部

発行所 〒780-8522 高知市廿代町2-22

近森リハビリテーション病院内 (一社) 高知県言語聴覚士会事務局

TEL:088-822-5231 FAX:088-822-2075 Email:chirihai@chikamori.com

KOCHI
Tamamo

業務用給食物資

(株) 高知タマモ

高知市池字堀越 402-19

電話(代) (088)837-6621

FAX 837-6612

四国医療サービス株式会社

〒780-8017

高知県高知市南竹島町35番地

TEL(088)833-3552 FAX(088)831-2040



Yohinaga Group